－所蔵作品紹介－

砂澤　ビッキ　SUNAZAWA Bikky

ニツネカムイ

につねかむい

作品データはこちら

作者最晩年の作品で、地面から伸び上がっていくような生命力を宿す作品である。彼の晩年の作品には珍しく題名にアイヌ語が使われている。「ニツネカムイ」はアイヌの伝説に登場する魔神で、旭川市郊外の神居古潭（カムイコタン＝アイヌ語で「神の居所」）に住んでいたとされる。伝説は複数あるが、悪事をたくらんだため英雄神と格闘の末、首をはねられたという内容のものがある。その頭と胴体とされる岩は現在も残っている。

むろん、伝説によるものとはいえ、この作品の内容が深くそれに関連しているとはいえない。また、『悪徳の栄え』『悪の華』のような文学的要素を遠くに感じさせることはあっても（これは澁澤龍彦との交流などと深く関連するようだ）、その造形は、実際はより広い自然の中に内在する神的なもの、生命の力などに対する本質的な追求へと昇華している。球形の連続した形は植物の芽のようでもあり、またエロス（生）を内在させた形でもあり、それは天を目指してぐいと伸び上がっていくのである。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より